

文化庁 平成 26 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業

「諸外国における民間文化支援の動向調査」

2015 年度フランス調査レポート（パリ・ナント）

実施日：2015 年 2 月 10 日（火）～2 月 14 日（土）

1. 調査の目的

企業メセナ協議会ではこのたび、諸外国における民間文化支援の最新動向について情報収集するため、各国文化機関を中心に現地視察・ヒアリングを実施した。諸外国のメセナ事情については、弊会発行の『メセナ白書 1995:特集「世界のメセナ」』以来のまとまった調査となり、現在の各国の動向や実態、日本の企業メセナとの比較材料や参考事例を得ることを目的としている。

一カ国目は、弊会設立のきっかけにもなったフランスのメセナ機関 ADMICAL の協力を得て、パリにおいて文化事業に取り組む民間企業および財団を中心にヒアリングを行った。あわせて、クリエイティブ・シティの成功事例として頻繁に紹介されるフランス南西の港町・ナント市の視察も実施した。

2. 日程・視察先

2/11 (Wed)	①	アドミカル 6 boulevard Saint-Denis, 75010 Paris
	②	ソシエテ・ジェネラル 17, cours Valmy 92972 La Defense
	③	エルメス財団 24, foubourg saint-honore 75008 Paris
	④	クルチュール&ディベルシテ財団 97, rue de Lille 75007 Paris
2/12 (Thu)	⑤	ルイ・ヴィトン財団 8, avenue Mahatma Gandhi Bois de Boulogne 75116, Paris
	⑥	資生堂インターナショナル・ヨーロッパ 79, rue Marcel Dassult 92100 Boulogne-Billancourt
	⑦	ルレ・キュルチュール／メゾン・ド・ヨーロッパ・ド・パリ 35-37, rue des Francs-Bourgeois 75004 Paris
2/13 (Fri)	⑧	カルティエ現代美術財団 261, boulevard Raspail F-75014 Paris
	⑨	ナント市庁 2,rue de l'hotel de Ville 44000 Nantes
	⑩	レ・マシーン・ド・リル 2, Bd Leon Bureau 4420 Nantes
	⑪	ヴォアイヤージュ・ア・ナント 1-3 rue Crucy 44000 Nantes
2/14 (Sat)	⑫	リュ・ユニック 2, rue de la biscuiterie, BP 21304, 44013 Nantes Cedex 1

実施者：加藤種男(専務理事)、末澤汐音(調査研究)、坂本麻里絵(国際交流)



【パリ市内地図・訪問先】

- ① ADMICAL
- ② Societe Generale
- ③ Fondation d'entreprise Hermes
- ④ Fondation Culture & Diversite
- ⑤ Fondation Louis Vuitton
- ⑥ 資生堂インターナショナル
- ⑦ Maison de L'Europe de Paris
Relais Culture Europe
- ⑧ Fondation Cartier pour
l'art contemporain



【ナント市内地図・訪問先】

- ⑨ Nantes 市庁
- ⑩ Les Machines de l'île
- ⑪ Le Voyage à Nantes
- ⑫ Le Lieu Unique



3. 調査の内容

※取材先へのヒアリングを中心に、資料やウェブサイト等から補足してまとめた。

3-1. 概要

(1) フランスの企業メセナの流れ

- フランスにおける「メセナ」は、文化芸術に限らず、環境、社会、スポーツも含むフィランソロピー全般を指す。同国では伝統的に芸術や公益に関することは政府管轄の事柄と捉えられてきたため、民間の文化支援といえば資産家などの個人によるものが主流だったが、80年代に寄付税制等の法改正が進み、企業によるメセナ活動が活発化した。企業にとってもメセナ活動によって、経済活動以外でも社会貢献ができるという理解が深まっている。近年は 2008 年のリーマンショック以来、政府が財政的困難に陥ったため、社会的にも企業メセナの必要性は高まっている。

(2) 近年の企業メセナの傾向（2014 年度 ADMICAL 調査より）

※ADMICAL では 2 年ごとにフランス国内の大・中小企業を対象とした総合アンケート調査を実施している。

http://www.admical.org/sites/default/files/uploads/philanthropy_trends_portail_du_mecenat_admical.pdf

- 調査対象企業 1,019 社のうち、メセナ実施企業は 12%。実施企業の規模別内訳は、小規模企業（従業員数 10 人未満）が 79%、中規模企業（従業員数 10～250 人未満）が 19%、大企業（従業員数 250 人以上）が 2%だが、支出額の割合は大企業が全体の 56%を占めている。
- 予算は近年減る傾向にあるが、メセナ実施企業全体の総予算は 2.8 億ユーロ（≒3,752 億円）。
- メセナの対象となる分野は 1 位：スポーツ、2 位：ヘルスメディカル、3 位：教育、4 位：芸術文化。芸術文化へのメセナ予算は 3 億 6,400 万ユーロ（≒487.7 億円）。また、資金支援だけでなく、スキルや人材の提供など資金以外のメセナも行われている。

(3) 地方自治体、欧州連合による文化政策

- 近年は地方自治体による文化振興が活発になっている。パリ市では、劇場、フェスティバルなど多数の文化資産を持っており、文化観光による経済効果も高い。「パリ＝文化的な街」であることを重視し文化予算を組んでいる。また多くの地方自治体で、寒く暗い冬の期間にフェスティバルやダンスイベント等を実施し、街を活気づけている。
- 第二次世界大戦から 1993 年の欧州連合（EU）設立時までには、文化政策は民族のアイデンティティに関わるものとして各国に任されてきたが、近年は EU 内の連携を強めるため、EU としても少しずつ文化に関与するようになってきている。そこでは文化遺産の保護だけでなく、現代的で欧州らしいクリエイティブ性の発揮、イノベーションにつながる活動の促進が重視される傾向にある。
- EU 以外にも、第二次世界大戦直後につくられた、子ども・教育・文化に関わるヨーロッパ議会（コンセイユ）が存在する。各国政府から独立した組織であったため、設立当初から文化を扱っており、現在も、主に文化遺産保護や各国の文化的ネットワークを守る役割を果たしている。

(4) ナント市の文化政策

- ナント市はフランスの西部、ロワール川河畔に位置し、18 世紀はナントとアンティル諸島との三角貿易（現在は市内に奴隷解放のメモリアルパークが設立されている）、19 世紀は造船業をはじめとする工業で栄えたが、1990 年代には多くの工場が閉鎖に追い込まれ活気を失った。2001 年、ジャン＝マルク・エロー市長の指揮による文化を通じた再活性・再開発計画が成功をおさめ、フランス文化省・地方自治体

省によりフランスの歴史と芸術のまちに登録された。2004 年には米『タイム』誌で「ヨーロッパで最も住みやすい都市」にも選ばれている。

- またナントでは戦争による破壊を免れたため、ブルターニュ大公城や中世の街並み、歴史的な彫刻像など、街中に各時代の優美な遺構が豊富に残っており、広場や大聖堂などが保護区域に指定されている。
- 主な文化催事は、ラ・フォル・ジュルネ音楽祭、ナント三大陸映画祭、現代美術のエステュエール・ビエンナル、1979 年に結成されたストリート・シアター集団「ロワイヤル・ド・リュクス」、機械仕掛けの遊園地「レ・マシ・ド・リル」プロジェクトなど。日本との交流もかなり活発で、新潟市との文化交流事業も行うほか、2017 年には「日本のアール・ブリュット展」が開催予定である。
- かつて街のシンボルであった国民的ビスケット工場をリノベーションした「リュ・ユニック」では、音楽、ビジュアルアート、DJ、パフォーマンスなど多彩なイベントが恒常的に開催され、多くの若者が集うカルチャーセンターとして中心的な役割を担っている。

3-2. ヒアリング先機関の概要・事業内容

【パリ／民間団体・企業・財団】

アドミカル (Association pour le développement du mécénat industriel et commercial: ADMICAL)

フランスの商工業メセナ推進協会。企業の芸術文化支援を推進する民間連合組織として 1979 年に設立された。機関紙の発行、調査研究、顕彰事業 (“Les Oscars du Mecenat”)、セミナー、コンサルなどを行う。91 年から対象分野を拡げ、文化だけでなく環境や教育など社会課題全般を対象としている。現在は約 200 の企業・関連団体が加盟、スタッフは 11 名。法務・税制の専門スタッフなど。主なヒアリング内容は 3-1(1)、(2)の通り。



【訪問日】 2015 年 2 月 11 日 (水) 10:30～

【面会者】

François Debiesse (President)

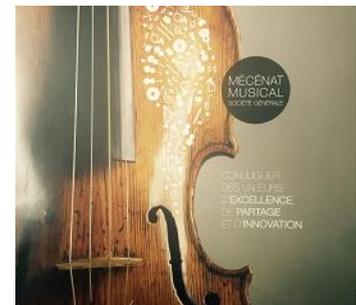
Laure Chaudey (Legal affairs and international relationships manager)

Sylvaine Parriaux (Directrice du developement adhesion)

<http://www.admical.org/>

ソシエテ・ジェネラル (Societe Generale)

1864 年創立、フランス国内第二位の大手金融機関。1987 年から音楽事業、1995 年から現代美術の蒐集を開始。若手クラシック音楽家の支援・育成や、コンサートなど多くの音楽プログラムを実施。本社内にある音楽室は社員に解放され、休み時間に自由に楽器を弾いて過ごすこともできる。現代美術コレクションは外国人作家も含め、若手アーティストや現在活躍する現代アーティストが対象。約 300 点の作品、700 点のデッサンおよびリトグラフを所有し、オフィス内での展示や、美術館への貸し出し、子ども向けの社内作品鑑賞ツアー、アーティストとのワークショップ、シンポジウムも行っている。文化事業の予算は、音楽・美術あわせて約 200 万ユーロ(≒2 億 6,800 万円)。



【訪問日】 2015年2月11日(水)14:30～

【面会者】

Ulrich Mohrle (Mecanat Musical Societe General, Direction de la Communication COMM/MSP/MUS, Department du Sponsoring et du Mecanat)

Aurelie Deplus (Responsable Mecanat Artistique, Direction de la Communication COMM/MSP/ART)

<http://www.societegenerale.com/>



エルメス財団 (Fondation d'entreprise Hermes)

エルメスは創業一家による同族経営であり、長らく一族が個人メセナとして文化支援を行ってきたが、2000年から企業としてのメセナ予算枠を設けるとともに、店舗での作品展示を開始し、2007年に財団が創設された。2002年に東京・銀座、ブリュッセル、ソウル、シンガポールのブティック内にもアートスペースを設け、特に韓国は自国の若手作家を対象とする美術賞など、重要な動きを見せている。また、エルメスの真骨頂である優れた職人技と現代美術をつなぐため、エルメス工房でのアーティスト・イン・レジデンス・プログラムを行う。滞在アーティストは工房の技術やノウハウを学び機材を活用でき、国際的に活躍する経験豊かなアーティストがメンターとして関与する。そのほか国際デザイン賞、舞台芸術への支援、美術館への資金支援など。予算は年間約800万ユーロ以上。



滞

【訪問日】 2015年2月11日(水)16:00～

【面会者】 Catherine Tsekenis (Directrice)

<http://en.fondationentreprisehermes.org/>

キュルチュール・エ・ディベルシテ財団 (Fondation Culture & Diversite)

金融格付け機関 Fitch Group 等の主要株式を所有した Fimalac 社 CEO により 2006 年に創設された民間財団。主に低所得層出身の子どもたちに対する芸術教育の機会均等を目的として、政府や文化施設、教育機関と連携しながら 3 つの事業を行う。

- ① 社会団結のためのプログラム: オークストラ、現代舞踊、写真・映像、美術、即興演劇の分野で、子どもたちに「見る」「学ぶ」「実践する」の三段階を体験させる。
- ② アワード事業: 芸術・文化に関わる優れた教育プログラムを企画・実施した団体に与えられる賞。シラク大統領財団との共催で、授賞式はエリゼ宮で行われる。
- ③ 芸術教育のためのプログラム: 芸術家を志す若者を対象に、高等美術学校に関する情報提供と受験、コンクール支援、合格・受賞後の奨学金授与を行う。このプログラムでサポートを受けた学校の子

どもたちは、そうでない学校に比べて合格率が上昇するという成果がある。年間の総予算は 150 万ユーロ(≒2 億円)。ディレクター1名、スタッフ 5 名で運営。スタッフは全員、芸術とビジネスの 2 つの領域でディプロマを持っている。

【訪問日】 2015年2月11日(水)18:00～

【面会者】 Monique Bouscasse (Chargee de mission)

Claire Baillat (Chargee de mission)

<http://www.fondationcultureetdiversite.org/>

ルイ・ヴィトン財団美術館 (Fondation Louis Vuitton)

パリ郊外ブローニュの森に 2014 年 10 月にオープンした現代美術館。LVMH グループは 20 年以上にわたり現代アートに対するメセナ活動を実施、2006 年にグループの会長兼最高経営責任者であるベルナール・アルノーにより財団の設立が提唱された。同年、財団はパリ市との間で、2007 年から 55 年間にわたり 1 ヘクタールの区画に芸術・文化振興を目的とした建物を建設・使用できる公有財産占有に関する協定を締結したことで、美術館の開館につながった。

同館では財団およびアルノー氏個人のコレクション展示、20～21 世紀美術を中心とする企画展のほか、ギャラリーツアー、音楽ホールでの現代音楽プログラム、パフォーマンスイベントも実施する。

【訪問日】 2015 年 2 月 12 日 (木) 10:30～

【面会者】 Emmanuelle de Montgazon

<http://www.fondationlouisvuitton.fr/>



カルティエ現代美術財団 (Fondation Cartier pour l'art contemporain)

「現代アート、アーティスト、カルティエを結び、カルティエを現代の創造性につなぐ」という哲学のもと、パリのギャラリーおよび各国での展覧会やアートプロジェクトを企画・実施する。多くのコレクションを持ち、過去 30 年間で約 150 の展覧会を実施。国際的ブランドとして日本、中国、韓国、ブラジルなど支店のある国を中心に世界中での巡回展も精力的に行う。年間の事業費は 650～750 万ユーロ(≒8～10 億円)。スタッフは 27 人。

カルティエにとって財団の活動は商業的なものではなく、ブランドの創造的なイメージを世界に広めることがミッションである。財団活動を通して、音楽家、文化人、映画人、科学者、数学者などさまざまな分野の人々と関わり、ネットワークを広げることも重要視している。



【訪問日】 2015 年 2 月 13 日 (金) 10:00～

【面会者】 Hervé CHANDES (Directeur General)

<http://www.maisondesculturesdumonde.org/>

資生堂インターナショナル・ヨーロッパ

資生堂は 1991 年、欧州に初めて生産拠点を開設し、95 年に株式会社資生堂インターナショナル、97 年に資生堂ヨーロッパ株式会社が設立された。97 年に早くもパリ装飾美術館で「PARIS - TOKYO - PARIS SHISEIDO 1897-1997 LA BEAUTE」展が開催されている。

フランスでも資生堂は文化やアートに理解ある企業として認識されているため、美術館の改修や展覧会に対する協賛や、日本庭園の整備などへの支援依頼は多い。基本的には東京本社に決裁権があるが、資生堂メセナの理解につながること、アヴァンギャルドなものであること、日本人アーティストや日本らしい生活の中の美を扱うもの、発表機会がないアーティストの支援につながることを、といった観点から、本社と協議しながら支援先を選定している。



【訪問日】 2015 年 2 月 12 日 (水) 14:00～

【面会者】 藤原邦一氏 (欧州広報代表)、柳沢ゆかり氏 (欧州広報担当)

<http://www.shiseido-europe.com/>

【パリ／EU 関連団体】

Maison des Cultures du Monde / L'Europe de la culture

【Maison des Cultures du Monde】

第二次世界大戦後、ドイツ、フランスの若い世代で、国同士の和解と平和のメッセージを EU 全体に発信しようとの理念により設立された団体で、EU 内に 35 の支部を持つ。フランス、ドイツに最も多く、次いでスペイン、イタリア、チェコ等に存在している。ベルリンの壁崩壊後も政治的役割を持ち、チェコ、ポーランドの民主化の際には、民主主義を訴える役割を担った。法律的には行政から独立した団体だが、パリ支部はパリ市、国、EU 等から助成金を受けて運営されている。

主な活動は、EU 内のアーティスト相互の交流、資金調達のための知識提供、著作権強化の働きかけである。ヨーロッパは数多くの複雑な規則があるため、アーティストが EU から十分な支援を受けられるようにアドバイスを行っている。

【L'Europe de la culture】

EU 内各地に存在し、EU のアーティストのネットワークをつくり、アーティストやクリエイターを結びつける事業を行う団体。自国内にとどまる傾向にあるアーティストを、スラブ、コーカサスも含めたヨーロッパ中で活動できるよう、支援を行っている。フランスのアーティストが自ら進んで他の国でも活動することで、フランス人であるとともにヨーロッパ人でもあるとの意識を持ってほしいと願っている。

パリ市、EU からの資金提供と、協力組織からの事業に対する報酬を得て運営している。



【訪問日】 2015 年 2 月 12 日 (木) 16:00～

【面会者】 Catherine Lalumiere (Presidente)、
Laurence BARONE (Analyse politique)

<http://www.maisondesculturesdumonde.org/leurope-de-la-culture>

【ナント市】

レ・マシン・ド・リル (Les Machines de l'île)



伝統的な機械仕掛けの技術で動く巨大な象や少女の人形で有名な、人形製作集団。設立者フランソワ・ドゥアラロジュール氏が、同様の巨大人形(マシン)を使ったパフォーマンス劇団「ロワイヤル・ド・リュクス」とその技術者や彫刻家、建築家、クリエイターとともに、1999 年に設立した。トゥールーズとナントに拠点を置く。2006 年までロワイヤル・ド・

リュクスのほぼ全てのプロジェクトに参加したが、現在は独立し、2008 年から独自に工房とギャラリースペースを運営、街中でのスペクタクル・パフォーマンスを行う。他国での公演も精力的に行い、これまでリバプール、横浜、北京といった都市における芸術祭等に参加し、人気を呼んだ。

財源は、国および地方自治体(ヨーロッパ、フランス政府、ナント地方)の公的資金と民間のメセナによる。技術集団らしく、特にテクノロジーや石油・電気な



どの企業が協賛を行っている。支援企業は協賛したマシンを自社の宣伝媒体で活用できるほか、マシンの製作過程そのものに関わり、自社の技術力を提供することもできる。年間の予算は 4,000 万ユーロ(≒53 億円)。

【訪問日】 2015 年 2 月 13 日(金)16:00～

【面会者】 Fredette Lampre (Chargee de diffusion et des partenariats)

<http://www.lamachine.fr/>

ヴォワイヤージュ・ア・ナント (Voyage à Nantes)

「文化で観光客を呼び込もう」をスローガンに、ナントに存在するアート・文化資産をつなぐアートプロジェクトの運営団体として設立された。文化資源の豊富なナントの特性を活かし、アートと街をむすびつけた企画で旅行者を増やすことが目的。主なプロジェクトは以下の 2 つ。

- ① 「Voyage a Nantes」:ブルターニュ大公城、ラ・マシン、市庁舎などの文化資産をつなぐ全長 15 km の都市観光ルート。河口の景観も楽しめるようなルート上に設置された現代アートの作品、歴史遺産、観光名所を辿り、街を違った角度から眺められるよう企画されている。プログラムを通してナントの魅力を再発見し、観光の側面から経済活性に貢献する。
- ② 「エスティエール」:2007～2012 年までビエンナーレ形式で実施された野外展覧会。2012 年以来、恒常的な企画となり、毎夏、街の隅々に現代アートの作品が設置される。川俣正、西野達ら日本人アーティストも招聘されてインスタレーションやパーマネントな作品制作を行った。



運営資金の 3/4 は公的資金、1/4 は民間で、特に地元企業からの資金を得ている。2007 年、2009 年、2011 年に開催したビエンナーレ

では、それぞれ年間 800 万ユーロ(≒10 億 7,200 万)を要した。支援企業は、①高額の資金支援を行う「オフィシャル・パートナー」、②小額の資金支援または物品・素材の提供を行う「プロジェクト・パートナー」、③ラジオフランスといったメディアなど、1 万ユーロ相当の支援を行う「サービス・パートナー」の三段階を設けている。

またさまざまな企業のプロジェクトとアーティストをつなぐ事業も行っている。ナントで何らかのプロジェクトを実施したい企業をアーティストに紹介し、大規模なプロジェクトから、レストランがテラス制作をアーティストに依頼するというような小さいものまで、企業との架け橋になっている。さらに 2015 年からは、「どのように都市をつくるか」をテーマとして、地元の不動産業者、建築家、都市計画者を集めた「Club Art Vills (アートと街のクラブ)」が、まちづくりに向けた活動に取り組み始めている。

【訪問日】 2015 年 2 月 13 日(金)18:00～

【面会者】 David Moinard (Head of artistic programming)

<http://www.levoyageanantes.fr/>

リュ・ユニック (Le Lieu Unique)



ナント市の文化創造拠点であり、文化による都市再生のシンボリックな施設。2000年、世界的に有名なビスケットメーカーLU社の工場跡地を、劇場や展示室、カフェを兼ね備えたアート複合施設「リュ・ユニック」としてリノベーションした。

現在のディレクターはスイス人で、歴史家であり、作家、キュレーターでもあるパトリック・ギゲール氏。フランス元首相のジャン＝マルク・エロー氏がナント市長を務めていた際に、2代目ディレクターとして任命された。

産業遺構ならではの巨大な施設空間を活かし、大小さまざまなプロジェクトや展覧会、音楽、演劇などのプログラムを行える大ホールがある。2階に4つのフリースペース、1階はDJブース、バー、レストラン、ショップなどで構成。市民参加型のさまざまなプロジェクトを行い、年間の企画数は約300件。夜遅くまで若者たちで賑わい、年間動員数は約50万人にのぼる。



【訪問日】2015年2月16日(土)19:00～

【面会者】Patrick Gyger (Directeur)

<http://www.lelieuunique.com/>

以上